



【重点取り組み】

「親子のこころの健康を地域で支える健康づくりに取り組みます」

乳幼児期からのより良い家族関係を築くために、親の子どもへの接し方のスキルを高める新たな事業を検討します。また、地域で孤立することなく子育てするために、父親への支援を行うこと、地域住民・関係機関と一緒に地域の特性に合わせた「子育てしやすいまちづくり」を行うことを、地域ごとに実施している地域会議*（地域情報交換会等）を中心に推進します。

1. 子育てしやすいまちづくりについて

子ども支援センター・地域子育て支援センター子育てアドバイザー（保育士）と母子保健課保健師を中心に、地域の現状や特性に合わせた活動をすすめています。

地 域	地域会議開催回数 (情報交換会)	主な取り組み内容
阿 蘇	3 回 (1 回)	情報交換会では、子育て支援に関する活動報告、阿蘇地区の特性と事業報告の後、2グループにわかれ、子育て支援に関する意見交換を行った。地域の実情を話す中で子どもたちが自由に集え、世代を超えた地域の交流が深められる取り組みを実現したい、との意見が出された。母子保健推進員の勉強会を1回実施。地区の特性を確認し、お散歩マップの改訂に向け話し合った。
村 上	12 回 (1 回)	平成 29 年度の情報交換会にて多文化交流センターで妊娠・出産・育児の相談が多いという情報があったため、保健師・子育てアドバイザーが多文化交流センターに出向き、母子保健事業の説明を行った。外国籍の方が妊婦健診や乳幼児健診などの問い合わせに来所した際、最新の情報に基づき説明ができるようになり、より丁寧な対応につながった。11 月には情報交換会を開催し、学校関係を含む幅広い世代の子育て支援に関する各機関が参加し、顔の見える関係づくりを行うことができた。母子保健推進員の勉強会では第二勝田保育園の地域解放「ひだまり」と TRC 八千代中央図書館の託児サービスの見学を行い、地域の社会資源について共有することができた。
睦	3 回 (1 回)	平成 27 年度の地域情報交換会で「睦地区の子どもの安全を守る視点で考える」をテーマに地域の危険箇所等の情報を共有し地図に書き込み、以後、その地図を地域子育て支援センター つばめに掲示し、来所した母子や母子保健推進員からの情報を追加しており、新しい情報を地域情報交換会で共有している。平成 30 年度は、阿蘇地区と一緒に作成されているお散歩マップを睦地区だけのバージョンに作成し直すため、従来の地図の情報に加え、改めて、情報交換会で睦地区の様子（通学に危険な交通量の多い道路や眺めの良い場所等）を地図に書き込みながら、参加した住民の方に地域の情報を教えてもらい、子どもたちが安心安全に成長していけるよう、地域で見守っていくことが大切だという思いを共有した。また昨年度に引き続き、転入された若い世帯や外国籍の方とのつきあい方をどうしているか、困り事はないか等についても話し合い、新しく地域に入ってくる子ども達も受け入れていけるよう話し合うことができた。
ゆりのき台 大和田新田下区	13 回 (1 回)	大和田地区と合同で情報交換会を開催し、「子育て世帯の孤立化」についてグループワークを行った。その結果、地域で孤立化している子育て世帯がいることを参加者（地域に住んでいる祖父母世代の方や、地域の支援者）が知り、子育て世代に声をかけるきっかけや地域で見守る方法について学ぶ機会となった。母子保健推進員の活動としては、勉強会をすてっぷ 2 1 大和田で開催し、子ども支援センターの雰囲気や役割、子育てアドバイザーと地域の子育て情報について等情報共有することができた。また、大和田新田下区公会堂の出勤「遊びと交流の広場」や 10 代親の交流会に母子保健推進員が参加し、地域の母子と交流（世代間交流）を行うことで、親の思いや現代の子育ての現状について知るきっかけとなった。

大和田	8回 (1回)	すてっぷ2 1大和田の子育てアドバイザーを中心に、大和田支会祭りへ乳幼児の保護者を対象に防災ブースを出展した。また、すてっぷ2 1大和田利用者から参加者を募り、親子で大和田支会主催の生け花教室に参加（年3回）。若い世代と地域住民の世代間交流の場となっている。
高津	5回 (1回)	母子保健推進員が所属するやちよ元気体操応援隊の力を得て、こあらタイムでやちよ元気体操を実施、世代間交流を図った。普段体操する機会がない母親からは、楽しく体を動かせたと好評、応援隊からも子どもたちと交流できて嬉しかったと交流の良いきっかけとなった。虹のこころ保育園の見学を行い、施設の安全管理、地域との関わりなど特色を学んだ。平成30年度も緑が丘地区と合同で地域情報交換会を行い、子どもの虐待に関する学習と情報共有を行なった。子どもの虐待は見つけにくく、通報の難しさを感じている意見があったが、子どもや親へ声かけや見守ることが虐待の未然防止につながるなどの意識を共有できた。
緑が丘	3回 (1回)	母子保健推進員主体で、地域の公園や公共施設の情報を整理し、既存のお散歩マップを改訂した。緑が丘西地区の開発が続いているため、転入世帯が孤立することなく子育てができるように、新しく緑が丘西地区のお散歩マップの作成に向けて準備をすすめている。また、新しく開園した虹のこころ保育園の見学を行い、施設の特徴や取り組みについて学んだ。昨年度同様、高津地区と合同で地域情報交換会を行い、子どもの虐待に関する学習と情報共有を行ったことで、地域とのつながりの重要性を再確認することができた。
八千代台	12回 (1回)	平成30年度情報交換会では、「現在の子育て世代の父親について思うこと」をテーマに意見交換を行った。父が、自主的に自然に育児をしたり楽しんだりしているという意見が多く出される一方で、子育てネットワークを築きにくく地域から孤立している父もいるという意見もあった。地域の課題として、父が子育てに自然に参加できる環境の提供、事業展開の工夫、地域とのつながりを持ちにくい父にも目を向ける必要性等を共有した。父親も子育てを通して地域で交流を持ち家族や仲間と子育てを楽しむ街づくりに繋がる話し合いをすることができた。 母子保健推進員の活動では、勉強会で、家庭訪問をしていて思うことや気づいた事を出し合い、子育ての現状の理解を深めた。また、今年度新たに開設した八千代台南公会堂の出前「遊びと交流の広場」に参加して、母子との交流を行った。参加することで、訪問の際に出前広場を具体的に紹介できるようになった。
勝田台	7回 (1回)	勝田台地区総合防災訓練に母子保健推進員・保健師・子育てアドバイザーで参加。事前に母子保健推進員の勉強会で配布資料を見直し、新しい防災レシピを用意した。当日参加が少ない状況であったが、子育て世代へのアプローチは必要と考え、当日活用した資料をすてっぷ2 1勝田台内で展示したり、利用者と共に考える機会を設けるなどして生かすことを検討している。地域情報交換会では、「最近の子育てについてどう感じていますか？」をテーマにグループワークを実施。インターネットなどの情報が多いことや共働き家庭が多いことなど各々の立場から見える子育ての様子を出し合いまとめた。今回地域の子育て支援の情報を改めて詳細に伝えたことで、地域の現状の振り返り、共有ができた。

*地域会議とは、「子育てしやすいまちづくり」の実現にむけ、関係機関や住民組織が集まり、情報交換や課題を検討し実践する会議です。平成30年度も合同開催を含む全地域において地域会議（地域情報交換会）を行いました。



2. 親の子どもへの接し方のスキルを高める事業について

- ①親が地域子育て支援センターで子育てにおけるコミュニケーションを学べるよう、非暴力コミュニケーションで子どもとの対話をスムーズに進めるポイントについて、子育てアドバイザー等のスキルアップのための研修を行いました。また、利用者からの相談には、子どもへの接し方についてわかりやすく伝えるなどの対応をしました。
- ②1歳6か月児歯科健康診査や2歳6か月児歯科健康診査の事業において、厚生労働省の健やか次世代育成総合研究事業で作成された「子どもを健やかに育むために～愛の鞭ゼロ作戦～」のリーフレットの配布や育児相談で、子育てのアドバイスを実施しています。

3. 夫婦で子育て（父親への支援）について

平成29年度に作成した「☆パパ☆新聞！！」と、父親向けの子育て冊子である「papatry」を妊娠届け出時などに配布しました。また、全数対象事業の中で父親向けの情報を伝えたり、子育て支援センターでは「お父さんと一緒に遊ぼう」という父親向けの事業を行い、夫婦で子育てをするきっかけづくりを行いました。

【その他の主な取り組み】

1. 子どもの食育に関する取り組み

「食を通じて子どもの社会性と食の自己管理能力を身につけ、しなやかな身体、豊かなこころを育てます」

本取り組みは「やちよ食育ネットワーク協議会」が行う事業と、母子保健・子育て支援事業を中心に進められている事業の2本柱で推進しています。

(1) やちよ食育ネットワーク協議会が行う事業

◇食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」の実施

農業生産者と関わりのある食育授業を小学校全校で実施することを目指して、平成24年度より食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」を開始しました。小学3年生を対象に、人参・ねぎ・梨・ほうれん草・酪農のいずれかの農業生産者が学校に訪問し、農業生産者・学級担任・栄養教諭等の連携で授業を実施しています。

平成30年度においては、「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」調査において、自校で農業生産者と日程調整等を行うのは難しいと回答した9校に対しコーディネートを実施しました。学校独自で連絡調整を図り授業を実施した13校と合わせ、小学校22校全校で農業生産者と関わりのある食育を実施することができました。



▲小学校での授業の様子。実際の作物を用いて人参の生産等について説明する農業生産者

- ・やちよ食育ネットワーク協議会・分科会合同会議 1回開催
- ・やちよ食育ネットワーク協議会・分科会会議 1回開催
- ・やちよ食育ネットワーク協議会会議 1回開催

◇「学校での食育を推進するための学習会」の開催（平成30年7月23日）

農業生産者、小学校教諭、栄養教諭・学校栄養職員、やちよ食育ネット分科会委員を対象に、市内小学校の食育推進のための学習会を開催しました。食育推進事業「めざせ！食の達人 農業の先生とのふれあい授業」の事業説明や、実施マニュアルの活用についての説明、学校関係者等による講演を行い、食育について理解を深め、意識向上につながる機会となりました。

(2) 母子保健・子育て支援事業を中心とした食育

妊娠期からの継続した食育事業を展開しています。

◇妊娠期・・・妊婦に対しての食育（プレママ教室参加165名）

◇乳児期・・・4か月・10か月児赤ちゃん広場事業での食育（参加者2,354名とその保護者）

◇幼児期・・・もうすぐ1歳半おやこ広場での食育（参加者707人）、「みんなで食育事業」注1での食育（22回実施 参加者169人）、公民館・サークルからの依頼による出前食育講座（3回実施 参加者37組）、子育て応援ポケット事業での食育（相談人数71名 リーフレット配布枚数 2,470枚）

注1 みんなの食育事業とは：食を通じて生活力や育児力をつけることを目的に地域参画型・体験型で行う事業

◇学童期・・・学童保育における食育講座（8回実施 参加者272名）

◇学童期・思春期・・・健康福祉課からの依頼による食育講座（1回実施 参加者12名）

◇その他・・・依頼による研修会（1回実施 参加者16名）

2. 思春期保健ネットワーク会議の取り組み

「思春期の子は自分や他者を大切にし、生と性の課題について適切に対処します」

本取り組みは平成18年度に発足した八千代市思春期保健ネットワーク会議を中心に医師、助産師、学校関係者、保護者などのメンバーで推進しています。

(1) 八千代市思春期保健ネットワーク会議の開催

平成30年度は計4回の会議を行い、「思春期の生と性」の活動について検討しました。

(2) 思春期保健シンポジウムの開催

保護者が生と性の課題をはじめとした思春期保健の重要性を認識し、各家庭での取り組みに繋げることを目的に、平成19年度より思春期保健シンポジウムや研修会を開催しています。

思春期保健シンポジウム「10代の生と性」第12回

講演：「性別で見る多様性と人権」

～見えない/見せないしんどさを抱える子どもにむきあう～

平成31年
2月3日(日)



12回目を迎えた平成30年度の思春期保健シンポジウムは、性の多様性をテーマに小学生から大人まで幅広く講演活動を行っているダイバーノン代表 飯田亮瑠氏に、セクシュアリティの基本知識や、ご自身の体験から周囲の大人に向けたアドバイス等についてご講演いただきました。

当日は44名の参加があり、参加者のアンケートからは「しんどさを抱える子という点は多くの子に共通する内容」、「知る事から出来る事が増えるようになれば良い」等の感想が聞かれました。

 Diveinnon

(3) 中学生向けリーフレットの配布

性に関する正しい知識を得られるサイトや相談機関を掲載した「中学生向けリーフレット」を、中学1年生とその保護者を対象に配布しました。



(4) 「八千代市オリジナル生と性の教育教材」のデータ更新

平成25年度に作成した「八千代市オリジナル生と性の教育教材」に掲載している統計データについて、更新を検討しました。

(5) 思春期保健ネットワークニュースレターの発行

保護者や教員を対象に、思春期保健ネットワーク会議の取り組みを伝えることを目的とし、思春期保健シンポジウムの報告を中心としたニュースレターを発行しました。

(平成30年7月 第16報発行)